

ペルー 2024年のマンダリンの出荷は良い見通しで始まる

[FreshPlaza 2024年5月27日](#)

輸出業者ペルーMcフルーツ社のCEO兼オーナーであるマヌエル・カナレス氏は、「ペルーの2024年のマンダリン出荷シーズンは、良い見通しで始まっている。例年の販促キャンペーンの開始日にはまだ達していないが、ほとんどの産地で、果実は着色、そして何よりも大きさの点で順調に成長していることがすでにわかっている」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、ペルー全土の産地の多くの柑橘類農場を訪れ、マンダリンやその他の果実がどのような状態かを直接見てきた。「弊社が生産及び集荷している品種は、マーコットとマルバジオである。これらは果皮が厚く、種有りと種無しがあり、品質的には様々な市場向けにプレミアムなカテゴリー1とカテゴリー2がある。この出荷シーズンには果実のサイズが大変好ましく、サイズ1X~3X(大玉)に集中しており、サイズ2と3は少ない。」

同氏は、柑橘類の主な市場は中国と米国だと言う。「今シーズン、輸出業者として開拓する予定の新市場は、ヨーロッパと南米である。通常、中国市場では着色がT3~T1で、サイズが2X~3Xのものが求められるが、米国市場では色がT1~フルカラーで、3X以上のものが好まれる。この多様な需要は、当社のすべての規格を販売する良い商機を意味する。これらの市場での当初の価格は、1箱当たり12.5ドル以上である。」

カナレス氏は、エルニーニョ現象の好ましくない天候パターンは過去のもののように言う。「現在、10ヘクタールの自社農場に加えて、10人の契約生産者がいる。柑橘類の出荷シーズンは5月20日から10月の第2週までと予想されている。エルニーニョ現象は、今年のペルーの柑橘類生産に悪影響を及ぼしていないようだ。それどころか、4月の第2週以降の天候は非常に良好で、果実の着色と肥大に恩恵をもたらし、生産者と取引先にとって有益である。この出荷シーズンには、エルニーニョの影響はもはやないと推測できる。冬は例年ほど寒くはなかったが、柑橘類の出荷シーズンの良いスタートを切るには十分であった。マンダリンの収穫の後、主に米国、カナダ、中国向けのブルーベリーの収穫と輸出が続く。」

アボカドの市場価格は不安定

「アボカドに関しては、市場は価格の変動が多く、大玉の需要が高いため今年の収穫物では十分に満足できない。かなりの数の中玉と小玉があり、小玉が最も多い。」

執筆者: クレイトン・スワート

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

オーストラリア 3つのマンゴー新品種を導入

[FreshPlaza 2024年5月28日](#)

オーストラリアのマンゴー生産者であるマンブルー社は、国のマンゴー育種事業によって25年以上かけて開発された「Yess!」「AhHa!」及び「Now!」の3つのマンゴー品種の商業的流通を進めている。

同社は、キャサリン市(北部準州)近郊のパロンギリー農場に約4千本のこれらの品種を植栽した。さらに、クイーンズランド州では、同社の商業的戦略の一環として、26の生産者が2万本を植栽した。同社の執行役員であるマリー・ピッコーネ氏は、新規植栽の大部分はクイーンズランド州で行われており、ニューサウスウェールズ州、西オーストラリア州、及び北部準州に拡張する計画があると強調した。同社は、収益性の高い取引先の需要に合わせて出荷量を調整することを目指しており、当初は国内市場に焦点を当て、収益性と国内の需要によっては将来の輸出の可能性もあるとしている。同氏は、これらの品種の食味の特性から、世界市場での可能性を強調した。

出典: [abc.net.au](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)